

## リカバリーとピアサポートをもっと推していこう\_当事者・支援者との語り合い

○天野 敏江<sup>1)</sup>, 坂田 昭一郎<sup>2)</sup>, 波田野 真嶺<sup>2)</sup>, 根本 友見<sup>3)</sup>, 石塚 真美<sup>3)</sup>

1) 医療法人同和会 千葉病院, 2) 成田びあびあ倶楽部, 3) 国際医療福祉大学 成田看護学部

このワークショップは、千葉県成田市で活動しているピアサポーターと精神看護学の教員が協同で開催します。会員だけでなく、当事者の方にも是非ご参加いただき、リカバリーとピアサポートについて共に考え学び合う場にしたいと思っています。

リカバリーとは、複合的な概念であり、疾患の治療や症状の改善を必ずしも意味するものではなく、また、一時点の状態でもなく、当事者自身が新たな人生の意味や目的を見出して充実した人生を生きていく一人ひとりのプロセスと定義されることが多いです。リカバリーは地域精神保健医療福祉の現場ではだいぶ浸透してきているように感じられますが、「どんなに重い障害をもっていてもリカバリーの歩みのさなかにいる」という希望をもち、当事者個々のリカバリーを意識し共に歩む支援ができていますでしょうか。リカバリーという言葉も未だ身近ではない現場もあるかもしれません。

リカバリーの促進にピアサポートの重要性は論をまちませんが、障害福祉サービス等事業所や医療機関に

おける、ピアサポーターの雇用はまだまだ一部にとどまっています。2021年度の障害福祉サービス等報酬改定において、ピアサポート体制加算等が創設されましたが、ピアサポーターの雇用の促進に十分な報酬とはいえません。

ワークショップでは、前半は企画者のピアサポーターが行っている成田市におけるピアサポート活動や、障害福祉施設での勤務経験などを通じたリカバリーの歩み、支援者との関わりの中で感じたことなどの話題提供をします。

後半はグループディスカッションを行い、話題提供を聞いて感じたことや、リカバリーにつながる日頃の実践などを共有し、ピアサポーターと支援者の協同についても考えていきたいと思っています。参加者の皆さまが安心して発言できるように、ディスカッションにおける個人に関する情報は、この場のみにとどめていただくように配慮していきます。